

研究公開文書

2022年12月27日

研 究 名	ICDSC評価の活用とその有用性
研 究 の 概 要	<p>高齢社会になり、入院による環境変化、手術や手術をうけなくとも集中治療を受ける患者は高齢化し、術後や集中治療中にせん妄の発症率は高くなっている。発症すれば、治療や離床に遅れが生じ、二次的な症状を併発することもあり、退院時期も遅れる。2020年診療報酬改定で、「せん妄ハイリスク患者ケア加算」が創設され、せん妄評価に対するケアが重要視されている。</p> <p>当院では、ICDSC評価を導入しせん妄評価を行っている。しかし、せん妄の評価を継続的に行い、せん妄ケアにつなげているとは言い難い。調査内容は、せん妄評価の妥当性の指標として、ICDSC評価のカットオフ値を検討し、感度や特異度を算出する。せん妄評価の信頼性の指標としては、ICDSC評価者2者間の評価者間信頼性をk係数による算出する。それぞれの結果から、せん妄に対する看護ケアの提供に導くための教育体制の確立に向け、現状から見える課題について調査する。</p>
研 究 対 象	観察法の対象者：せん妄患者30人
研 究 責 任 者	佐々木仁美
研 究 実 施 期 間	許可日 ～ 平成2023年12月31日
連 絡 先	看護部 佐々木仁美 小田原市久野46番地 小田原市立病院 0465-34-3175